

上位の政策名	政策目標 4 科学技術の戦略的重点化	
施策名	施策目標 4 - 9 社会基盤等の重要分野の推進や急速に発展しうる領域への対応	
主管課 及び関係課 (課長名)	(主管課) 科学技術・学術政策局計画官 (計画官: 伊藤洋一) (関係課) 研究開発局地震・防災研究課 (課長: 磯谷桂介) 防災科学技術推進室 (室長: 盛田謙二) / 宇宙開発利用課 (課長: 大塚洋一郎)	
基本目標 及び達成目標	----- 基本目標 4 - 9 (基準年度: 平成 13 年度 達成年度: 平成 17 年度) 豊かで安心・安全で快適な社会を実現するために、社会の抱えている リスクを軽減する研究開発や国民の利便性を向上させ、質の高い生活を 実現するための研究開発を推進する。	達成度合い又は進捗状況 概ね順調に進捗
	----- 達成目標 4 - 9 - 1 (基準年度: 平成 9 年度 達成年度: 平成 16 年度) 全国主要 9 8 断層帯の活断層調査結果等により、平成 16 年度末を目 途に「全国を概観した地震動予測地図」を作成する。	概ね順調に進捗
	----- 達成目標 4 - 9 - 2 (基準年度: 平成 10 年度 達成年度: 平成 16 年度) 平成 16 年度末までに、地震災害に負けない都市を創るため、地震に よる被害を最小限にするための共用の研究施設「E - ディフェンス (実 大三次元震動破壊実験施設)」を完成させる。	概ね順調に進捗
	----- 達成目標 4 - 9 - 3 (基準年度: 平成 14 年度 達成年度: 平成 18 年度) 平成 18 年度末までに、大都市圏において大地震が発生した際に人的 ・物的被害を軽減化できることを目指した研究開発を推進し、地震防災 対策に関する科学的・技術的基盤を確立する。	概ね順調に進捗
	----- 達成目標 4 - 9 - 4 (基準年度: 平成 12 年度 達成年度: 平成 16 年度) 地球観測等への利用が可能な成層圏プラットフォーム飛行船システム を実現するため、平成 16 年度までに、飛行船の成層圏到達技術及び定 点滞空技術を確立する。	概ね順調に進捗
	----- 達成目標 4 - 9 - 5 (基準年度: 平成 9 年度 達成年度: 平成 18 年度) 移動時間短縮に貢献する次世代超音速機の実現を目指して、平成 18 年度までに、最適機体形状設計技術を確立する。	想定したとおりには 進捗していない

現状の 分析と 今後の 課題	<p>各達成目標の 達成度合い (達成年度が 到来した達成 目標について は総括)</p> <p>達成目標 4 - 9 - 1 政府の地震調査研究推進本部では、平成 16 年度末を目途に「全国を概観した地震動予測地 図」を作成する予定。平成 14 年度末に、北日本を対象にした同地図の試作版を作成し、公表 しているなど、平成 14 年度の達成目標の度合いとしては、概ね順調に進捗。 同地図の作成に必要な全国主要 9 8 断層帯の活断層調査については、平成 16 年度末までに一 通り終了することとなり、平成 14 年度までに 8 8 断層帯の調査を一通り終了。平成 1 5 年度から、残りの 10 断層帯について調査を実施中。</p> <p>達成目標 4 - 9 - 2 平成 14 年度の達成目標の度合いとしては、E - ディフェンスの実験棟、準備棟及び付帯施 設の外装建設工事はほぼ終了し、平成 15 年度から、実験棟の震動台を中心とする内装設備の 施工に着手していることから、概ね順調に進捗しているものと判断。</p> <p>達成目標 4 - 9 - 3 平成 14 年度の達成目標の度合いとしては、地震災害時における建物の倒壊、火災発生等 による人的・物的被害の軽減化に向けた「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」を新規に開始 し、既定の実験等を大過なく実施していることから、概ね順調に進捗しているものと判断。</p> <p>達成目標 4 - 9 - 4 飛行船の成層圏到達技術については、平成 15 年夏季に実施予定の「成層圏滞空飛行試験」 に向け、試験機の製作が完了するなど順調に作業が進められている。 定点滞空技術については、平成 15 年度中に着手予定の「定点滞空飛行試験」に向け、試験 機の製作、実験場の整備など順調に作業が進められている。</p> <p>達成目標 4 - 9 - 5 小型超音速実験機(無推力のロケット実験機とエンジン付きのジェット実験機)の飛行実証 を柱に平成 9 年度からプロジェクトを推進。ただし平成 14 年度に 4 回実施予定だったロケッ ト実験機による飛行実験が、平成 14 年 7 月の第 1 回飛行実験で失敗に至ったことから、ロケ ット実験機計画が 1 年程度ずれ込んでいる。</p>	

基本目標達成に向けての進捗状況	平成14年度の基本目標の達成度合いについては、各達成目標の達成度合いが、概ね順調に進捗していることから、安心・安全で快適な社会の実現を目指して、着実に寄与しつつあるものと判断。					
今後の課題	<p>地震防災分野に関しては、各達成目標が想定どおり達成できるよう今後も各施策を着実に推進する。</p> <p>航空分野に関しては、15年度実施予定の「成層圏滞空飛行試験」及び同年度内着手予定の「定点滞空飛行試験」に係る作業を着実に進める。なおこれまで実施してきたロケット実験機、ジェット実験機による飛行実証計画のうち、15年度はロケット実験機による飛行実験を継続。一方、超音速機開発の動向が大きく変化した等の理由から、ジェット実験機については以降の作業着手を見合わせ、2年程度かけて飛行実証の対象やコスト等も含め、飛行実験計画を見直す予定。</p>					
評価結果の15年度以降の政策への反映方針 (政策評価法第11条に基づく総務大臣への通知事項)	<p>達成目標4-9-1 「全国を概観した地震動予測地図」を平成16年度末までに作成するため、引き続き必要な活断層調査等を実施する。</p> <p>達成目標4-9-2 「E-ディフェンス(実大三次元震動破壊実験施設)」の16年度末完成を目指して、着実に整備を推進する。</p> <p>達成目標4-9-3 地震調査研究と防災科学技術を一体的に取り組む「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」に関する事務をより一層効率的かつ効果的に行うため、地震・防災研究課を設置する。</p> <p>上記の研究開発等を推進するとともに、大学・防災機関・地方公共団体等の連携により、これらの防災研究成果等を地域の防災活動へ反映させる事業を平成16年度以降、推進する予定。</p> <p>達成目標4-9-4 飛行船の成層圏到達技術の確立については、計画どおり、平成15年度夏季に「成層圏滞空飛行試験」を実施する。 定点滞空技術の確立についても、計画どおり、平成15年度から16年度にかけ「定点滞空飛行試験」を実施するべく着実に実験準備等を進める。</p> <p>達成目標4-9-5 次世代超音速機の最適機体形状設計技術の確立については、平成15年度にエンジンなしのロケット実験機による飛行実験を実施する。 その後に行う予定だったエンジン付きのジェット実験機計画については、2年程度の見直しの間、作業に着手しない。</p>					
指標	指標名	10	11	12	13	14
参考指標	全国主要98活断層の調査終了数 (達成目標4-9-1関係)	51	65	75	86	88
備考						

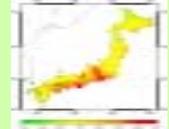
施策目標4 - 9 社会基盤等の重要分野の推進や急速に発展しうる領域への対応

● 社会の抱えているリスクを軽減する研究開発の推進

● 国民の利便性を向上させ、質の高い生活を実現するための研究開発の推進

● 施策目標4 - 9 - 1

主要98断層帯の活断層調査等により、全国を概観した地震動予測地図を作成する。



● 施策目標4 - 9 - 2

共用の研究施設「E - ディフェンス(実大)三次元振動破壊実験施設」を完成させる



● 施策目標4 - 9 - 3

地震防災対策に関する科学的・技術的基盤を確立する大都市大震災軽減化特別プロジェクトの実施



● 施策目標4 - 9 - 4

成層圏プラットフォーム飛行船システムの研究
飛行船の成層圏到達技術及び定点滞空技術を確立する



● 施策目標4 - 9 - 5

次世代超音速機技術の研究開発
最適機体形状設計技術を確立する



社会基盤等の重要分野の推進や急速に発展しうる領域への対応を行うことで、豊かで安心・安全で快適な社会を実現する